

柳川市史 最新刊行物のご紹介

◇柳川の歴史4『近世大名 立花家』



戸次道雪・立花宗茂・忠茂・鑑虎の時代を記述。戦国大名大友家の家臣から、大名に取り立てられ、改易・牢人といった苦難の時期を経て、再び柳川の領主として返り咲き、近世大名として脱皮をはかる立花家の姿が描かれています。

四六判 467頁
頒布価格 1500円 (税込み)

◇『柳川市史 史料編V 近世文書』



戸次道雪の立花入城から、立花宗茂、忠茂、鑑虎期にわたる古文書約3700点を出所ごとに収録。柳川の歴史4『近世大名 立花家』の記述の裏付けとなる史料集です。

A4判上製本2冊組
前編779頁・後編777頁
頒布価格5000円 (税込み)

◇柳川歴史資料集成第6-2集『柳川の民俗概観Ⅱ』



平成17年度から23年度にかけておこなった、市内三橋町・大和町の各地区での聞き取り調査の成果をまとめた民俗調査の報告書です。

A4判270頁
頒布価格1200円 (税込み)

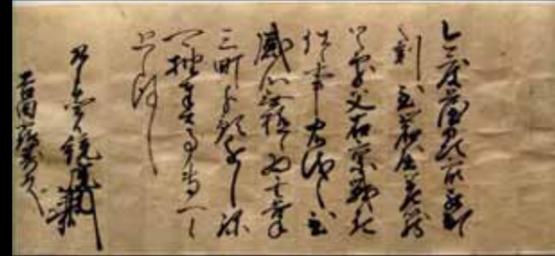
『柳川の民俗概要Ⅱ』を分かりやすく解説します

第1回 市史歴史講座

- 日時 9月16日(日)、13:30～(13:00開場)
- 会場 あめんぼセンター2階AVホール
- 内容 熊本大学准教授の鈴木寛之さんが「地域社会と民俗文化—旧大和町域」をテーマに、熊本大学特任教授の安田宗生さんが「地域社会と民俗文化—旧三橋町域」をテーマにそれぞれ講演 (入場無料)

問い合わせは、市史編さん係(☎72・1275)まで。

主な展示予定の史料



【上】岩屋城で戦死した吉田連正を賞し立花統虎(宗茂)が吉田家に送った感状(吉田家文書)【左】朝鮮出兵のときに立花家臣団が着用したと伝えられる金箔押桃形兜(立花家史料館蔵)【下】島原の乱で一揆勢が立てこもる原城を立花勢らが攻める様子を描いた嶋原御陣図(伝習館文庫)

2代藩主 立花 忠茂
1612-1675

初代藩主 立花 宗茂
1567-1643

戸次 道雪
1513-1585

3代藩主 立花 鑑虎
1646-1702

企画展 立花家と家臣団

会期 第1期 立花家を支えた家臣たち 8月28日～10月25日
第2期 立花家 近世大名への道のり 11月28日～2月6日
開館時間 9:30～16:30 会場 柳川古文書館(隅町) 入館 無料

柳川市史編さん委員会と柳川古文書館は、柳川の歴史4「近世大名 立花家」の刊行を記念して、代々柳川を治めてきた立花家とそれを支えてきた家臣団にスポットを当てた企画展を催します。

【問】柳川古文書館(☎72・1037)、市生涯学習課市史編さん係(☎72・1275)

奇跡のカムバック

柳川の領主に返り咲いた立花家

近世大名立花家の始まりは、元徳2(1571)年の戸次道雪の立花城入城にさかのぼります。跡継ぎのいなかった道雪は、閩千代の婿に高橋紹運の長男である宗茂を迎え、以降は道雪・宗茂両者が大友家家臣として多くの合戦で奮戦します。天正15(1587)年、豊臣秀吉によって宗茂は柳川の大名に取り立てられます。宗茂は検地や朝鮮出兵など、政権の要求に応えながら家臣たちとともに国造りを進めますが、慶長5(1600)年、関ヶ原合戦で西軍についたことにより、大名としての地位を失います。

家臣の多くを肥後加藤家に預け、宗茂の牢人生活は約6年間続きます。慶長11年、將軍秀忠によって宗茂は奥州南郷(棚倉)の領主となりますが、元和6(1620)年、筑後一國を治めた田中氏が二代で終わると、宗茂は奇跡的に再び柳川の領主に返り咲きます。この時、肥後加藤家に預けていた家臣たちを呼び戻して、再び国造りを進めていくのです。

二代藩主忠茂さらに三代藩主鑑虎の時代になると、藩政機構の整備が進められ、近世大名としての礎が築かれます。家臣たちの活躍の場は、戦場から行政へと移っていきます。その後、明治4年の廃藩置県に至るまで、立花家は家臣たちに支えられながら当地を統治していくことになるのです。

企画展の会期と内容のご案内

今回の企画展では、内容を2期に分けて展示を行います。

第1期 立花家を支えた家臣たち

●内容 戦国～近世初期の立花家に仕えた家臣たちについて、それぞれの家の古文書を中心に、その活動を紹介します。

●会期 8月28日(火)～10月25日(木)

第2期 立花家 近世大名への道のり

●内容 立花家臣団の誕生から、苦難の時期を経て、近世大名へと成長をとげる姿を紹介します。

●会期 11月28日(水)～来年2月6日(水)

※第1期・第2期とも、開館は午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)。休館日は月曜、年末年始。ただし、月曜が祝日の場合は開館し、その翌日を休館日とします。